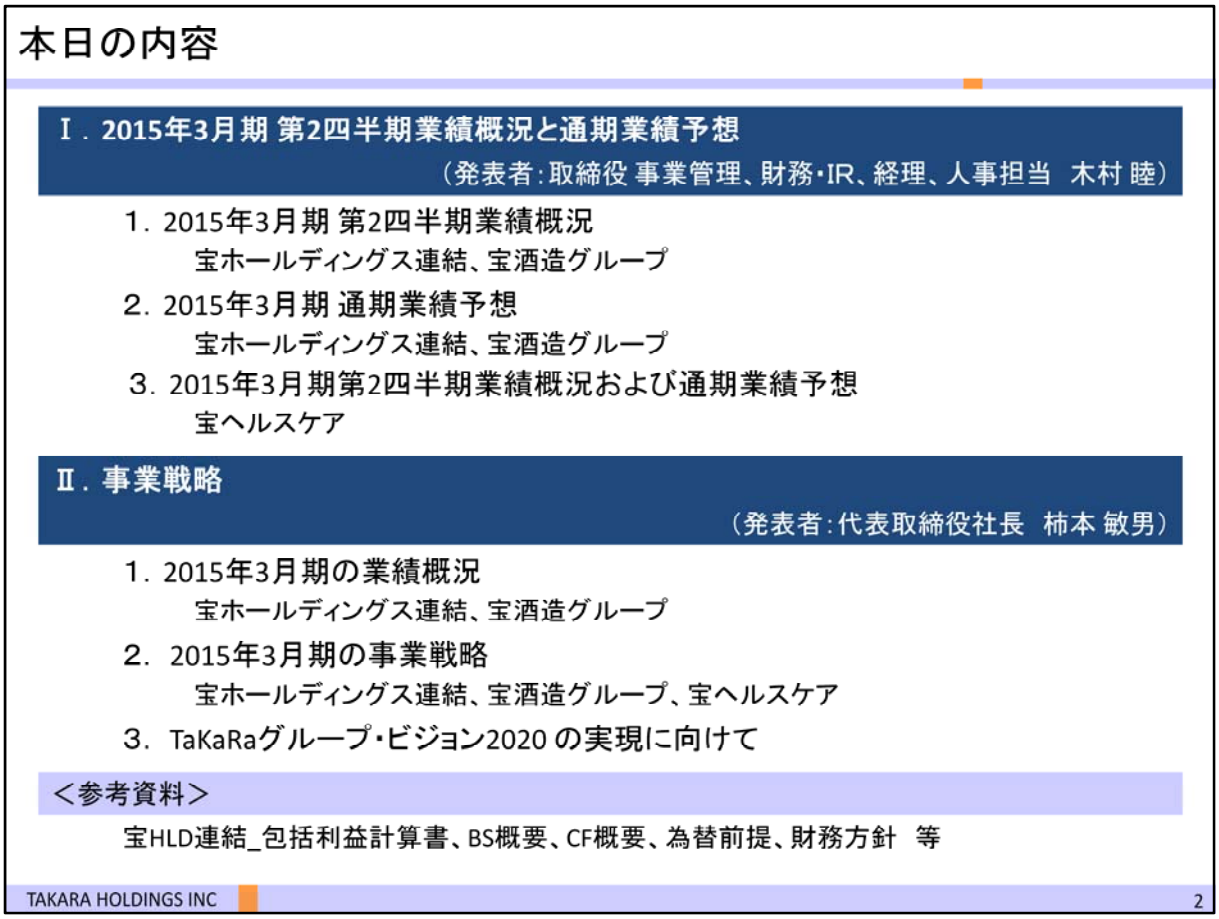
2015年3月期
第2四半期 決算説明会

2014年11月11日
宝ホールディングス株式会社



【第2四半期業績概況および通期業績予想　　発表者：取締役　木村　睦】

・本日は、お忙しいところ、当社グループの2015年3月期　第2四半期の決算説明会にお集まりいただき誠にありがとうございます。

・まず、第2四半期の業績の概況と2015年3月期の業績予想について説明します。

1．2015年3月期 第2四半期業績概況

宝ホールディングス連結

・宝ホールディングス連結の2015年3月期第2四半期の業績について説明します。

・資料に記載している「期初計画比」は、5月8日に公表した業績予想との比較です。

宝HLD連結_P/L概要：売上高～営業利益　（2015年3月期 第2Q累計）

（単位：百万円）	15/03期 2Q累計実績	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
宝酒造グループ	88,515	＋2,803	＋3.3	＋215	＋0.2
タカラバイオグループ	10,971	＋694	＋6.8	▲ 67	▲ 0.6
宝ヘルスケア	810	＋135	＋20.1	＋40	＋5.2
その他	833	▲ 64	▲ 7.1	▲ 58	▲ 6.5
売上高	101,130	＋3,568	＋3.7	＋130	＋0.1
売上原価	62,502	＋1,894	＋3.1	▲ 497	▲ 0.8
売上総利益	38,627	＋1,674	＋4.5	＋627	＋1.7
運送費	3,850	＋197	＋5.4	＋100	＋2.7
広告宣伝費	1,612	▲ 388	▲ 19.4	▲ 37	▲ 2.3
販売促進費	15,696	▲ 435	▲ 2.7	▲ 203	▲ 1.3
研究開発費	1,575	▲ 2	▲ 0.2	▲ 324	▲ 17.1
管理費、その他	12,616	＋1,422	＋12.7	＋386	＋3.2
販売費及び一般管理費	35,351	＋793	＋2.3	▲ 78	▲ 0.2
宝酒造グループ	2,194	＋730	＋49.9	＋594	＋37.1
タカラバイオグループ	625	＋170	＋37.6	＋168	＋36.8
宝ヘルスケア	30	＋35	－	＋22	＋287.3
その他	425	▲ 56	▲ 11.7	▲ 79	▲ 15.8
営業利益	3,275	＋880	＋36.8	＋705	＋27.5

TAKARA HOLDINGS INC　4

・連結損益計算書の売上高から営業利益について説明します。

＜前期比＞

・売上高は、宝酒造グループで28億300万円、タカラバイオグループで6億9,400万円、宝ヘルスケアで1億3,500万円の増収となり連結売上高は前期比35億6,800万円増収の1,011億3,000万円となりました。

・売上原価では、宝酒造グループ、タカラバイオグループともに原価率が改善し、売上総利益は、前期比16億7,400万円増益の386億2,700万円となりました。

・販売費及び一般管理費では、広告宣伝費や販売促進費は減少しましたが、連結子会社の増加や、為替レート変動による海外子会社の人件費の増加がありました。

・以上により、営業利益は、前期比8億8,000万円増益の32億7,500万円となりました。

＜期初計画比＞

・売上高は、宝酒造グループで2億1,500万円、宝ヘルスケアで4,000万円計画を上回りましたが、タカラバイオグループが6,700万円計画を下回り、全体では期初計画を1億3,000万円上回りました。

・売上原価は、計画に織り込んでいた売上原価のコストアップが計画以下に収まり、売上総利益は期初計画を6億2,700万円上回りました。

・販売費及び一般管理費では、科目間の増減はありましたが、ほぼ期初計画通りとなり、営業利益は7億500万円計画を上回りました。グループ別には、宝酒造グループが5億9,400万円、タカラバイオグループが1億6,800万円、宝ヘルスケアが2,200万円計画を上回りました。

宝HLD連結_P/L概要：営業利益～経常利益

（2015年3月期 第2Q累計）

（単位：百万円）	15/03期 2Q累計実績	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
営業利益	3,275	＋880	＋36.8	＋705	＋27.5
受取利息	101	＋28	＋38.3		
受取配当金	236	＋37	＋18.9		
受取利息・配当金	337	＋65	＋24.1	＋37	＋12.6
持分法投資利益	62	▲ 4	▲ 6.9		
その他	160	▲ 8	▲ 5.0		
その他営業外収益	222	▲ 13	▲ 5.6	＋22	＋11.3
営業外収益	560	＋52	＋10.4	＋60	＋12.1
支払利息	104	＋28	＋38.4		
社債利息	143	▲ 5	▲ 3.6		
支払利息	247	＋23	＋10.5	▲ 52	▲ 17.5
為替差損	31	＋31	－		
その他	128	＋13	＋11.3		
その他営業外費用	159	＋44	＋38.5	▲ 40	▲ 20.1
営業外費用	407	＋67	＋20.0	▲ 92	▲ 18.6
経常利益	3,429	＋865	＋33.7	＋859	＋33.4

TAKARA HOLDINGS INC 5

・営業外損益の状況を説明します。

・営業外収益、営業外費用は記載の通りですが、前期比、計画比ともに大きな増減はなく、経常利益は、34億2,900万円と、前期比では8億6,500万円の増益、計画比では8億5,900万円上回りました。

宝HLD連結_P/L概要：経常利益～当期純利益　（2015年3月期 第2Q累計）

（単位：百万円）	15/03期 2Q累計実績	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
経常利益	3,429	＋865	＋33.7	＋859	＋33.4
関係会社株式売却益	－	▲ 9,261	－		
固定資産売却益	59	＋52	＋801.7		
その他	19	▲ 56	▲ 74.2		
特別利益	78	▲ 9,265	▲ 99.2	＋78	－
固定資産除売却損	128	＋84	＋192.0		
その他	35	＋11	＋46.7		
特別損失	164	＋95	＋139.3	＋64	＋64.2
税金等調整前四半期純利益	3,343	▲ 8,495	▲ 71.8	＋873	＋35.4
法人税等	1,233	▲ 3,871	▲ 75.8	＋263	＋27.1
少数株主利益	281	＋156	＋124.7	＋31	＋12.8
四半期純利益	1,828	▲ 4,780	▲ 72.3	＋578	＋46.3

TAKARA HOLDINGS INC　6

・特別損益および四半期純利益の状況を説明します。

・前期には、タカラバイオ株式の一部売却による関係会社株式売却益を計上していたことにより、当期の特別利益は前期に比べ92億6,500万円減少しました。

・特別損失は前期比、計画比とも大きな増減はありませんでした。

・以上の結果、四半期純利益は前期比47億8,000万円の大幅減益となる18億2,800万円となりましたが、計画比では5億7,800万円上回りました。

1．2015年3月期第2四半期業績概況

宝酒造グループ

・宝酒造グループの2015年3月期　第2四半期累計期間の業績概況について説明します。

宝酒造G_P/L概要

（2015年3月期 第2Q累計）

（単位：百万円）	15/03期 2Q累計実績	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
焼酎	31,090	▲ 2,038	▲ 6.2	▲ 109	▲ 0.4
清酒	9,168	＋800	＋9.6	▲ 31	▲ 0.3
ソフトアルコール飲料	13,375	▲ 1,091	▲ 7.5	▲ 724	▲ 5.1
その他酒類	6,335	＋348	＋5.8	＋35	＋0.6
本みりん	6,465	▲ 345	▲ 5.1	▲ 34	▲ 0.5
その他調味料	4,107	＋166	＋4.2	▲ 192	▲ 4.5
原料用アルコール等	3,171	▲ 12	▲ 0.4	▲ 28	▲ 0.9
海外日本食材卸	8,390	＋5,044	＋150.8	＋1,290	＋18.2
その他	6,409	▲ 68	▲ 1.1	＋9	＋0.2
売上高	88,515	＋2,803	＋3.3	＋215	＋0.2
売上原価	56,846	＋1,607	＋2.9	▲ 353	▲ 0.6
売上総利益	31,668	＋1,195	＋3.9	＋568	＋1.8
運送費	3,497	＋153	＋4.6	▲ 2	▲ 0.1
広告宣伝費	1,396	▲ 385	▲ 21.7	▲ 3	▲ 0.3
販売促進費	15,246	▲ 353	▲ 2.3	▲ 153	▲ 1.0
研究開発費	165	▲ 0	▲ 0.1	▲ 34	▲ 17.0
管理費、その他	9,168	＋1,051	＋13.0	＋168	＋1.9
販売費及び一般管理費	29,474	＋465	＋1.6	▲ 25	▲ 0.1
営業利益	2,194	＋730	＋49.9	＋594	＋37.1

TAKARA HOLDINGS INC 8

・宝酒造グループの損益概要について説明します。

＜前期比＞

・売上高は、前期比28億300万円増収の885億1,500万円となりました。

カテゴリー別では、焼酎、ソフトアルコール飲料、本みりんなどが減収となりましたが、清酒、ウイスキーなどの「その他酒類」が増収となり、加えて、海外日本食材卸が大幅な増収となりました。

・売上原価では、原材料のコストアップをコストダウンで吸収することによって原価率が改善し、売上総利益は前期比11億9,500万円増益の316億6,800万円となりました。

・販売費及び一般管理費では、広告宣伝費や販売促進費が減少しましたが、海外子会社の人件費等が増加したことにより前期比4億6,500万円増加の294億7,400万円となりました。

・その結果、営業利益は前期比7億3,000万円増益の21億9,400万円となりました。

＜期初計画比＞

・売上高は、ソフトアルコール飲料、焼酎、清酒、みりんなどが計画を下回りましたが、海外日本食材卸が計画を上回り、全体では2億1,500万円上回りました。

・売上原価は計画に比べてコストダウンとなり、売上総利益は計画比で5億6,800万円上回りました。

・販売費及び一般管理費は計画並みとなり、営業利益は期初計画を5億9,400万円上回りました。

宝酒造G_売上高増減分析

（2015年3月期 第2Q累計）

（単位：百万円）	15/03期 2Q累計実績	前期比 増減	前期比 うち為替影響額	期初計画比 増減	期初計画比 うち為替影響額
焼酎	31,090	▲ 2,038	＋6	▲ 109	＋5
清酒	9,168	＋800	＋67	▲ 31	＋59
ソフトアルコール飲料	13,375	▲ 1,091	＋1	▲ 724	＋0
その他酒類	6,335	＋348	＋250	＋35	＋209
本みりん	6,465	▲ 345	＋14	▲ 34	＋11
その他調味料	4,107	＋166	＋9	▲ 192	＋7
原料用アルコール等	3,171	▲ 12	＋0	▲ 28	＋0
海外日本食材卸	8,390	＋5,044	＋440	＋1,290	＋711
その他	6,409	▲ 68	－	＋9	－
売上高	88,515	＋2,803	＋790	＋215	＋1,007

◆売上高の主な増減要因

（単位：百万円）

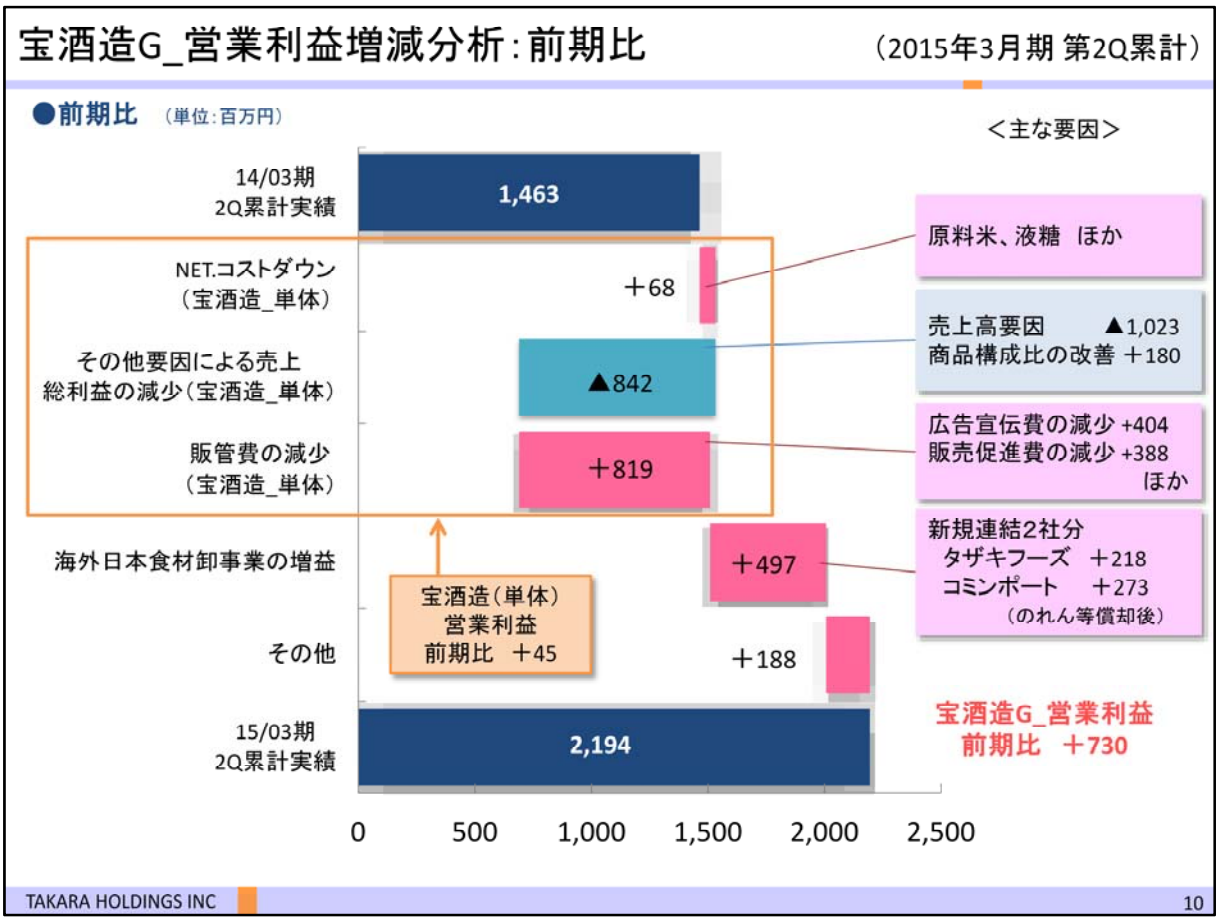
前期比	焼酎	飲用甲類	▲ 1,062
		本格焼酎	▲ 135
	清酒	澪	＋894
	ｿﾌﾄｱﾙｺｰﾙ飲料	焼酎ﾊｲﾎﾞｰﾙ	＋662
		直搾り、果莉那、すりおろし　など	▲ 1,576
	海外日本食材卸	新規連結2社分	＋4,306

期初計画比	焼酎	飲用甲類	＋668
		本格焼酎	▲ 372
	清酒	澪	▲ 88
	ｿﾌﾄｱﾙｺｰﾙ飲料	焼酎ﾊｲﾎﾞｰﾙ	＋331
		直搾り、果莉那、すりおろし　など	▲ 905

TAKARA HOLDINGS INC　9

・為替レート変動による売上高の増収効果は、前期比では7億9,000万円、期初計画比では10億700万円でした。

・海外日本食材卸は、前期比で50億4,400万円の増収となりましたが、そのうち43億600万円は、昨年9月に連結子会社となった英国のタザキフーズ社と今年3月に連結子会社となったスペインのコミンポート社の新規連結による増加です。



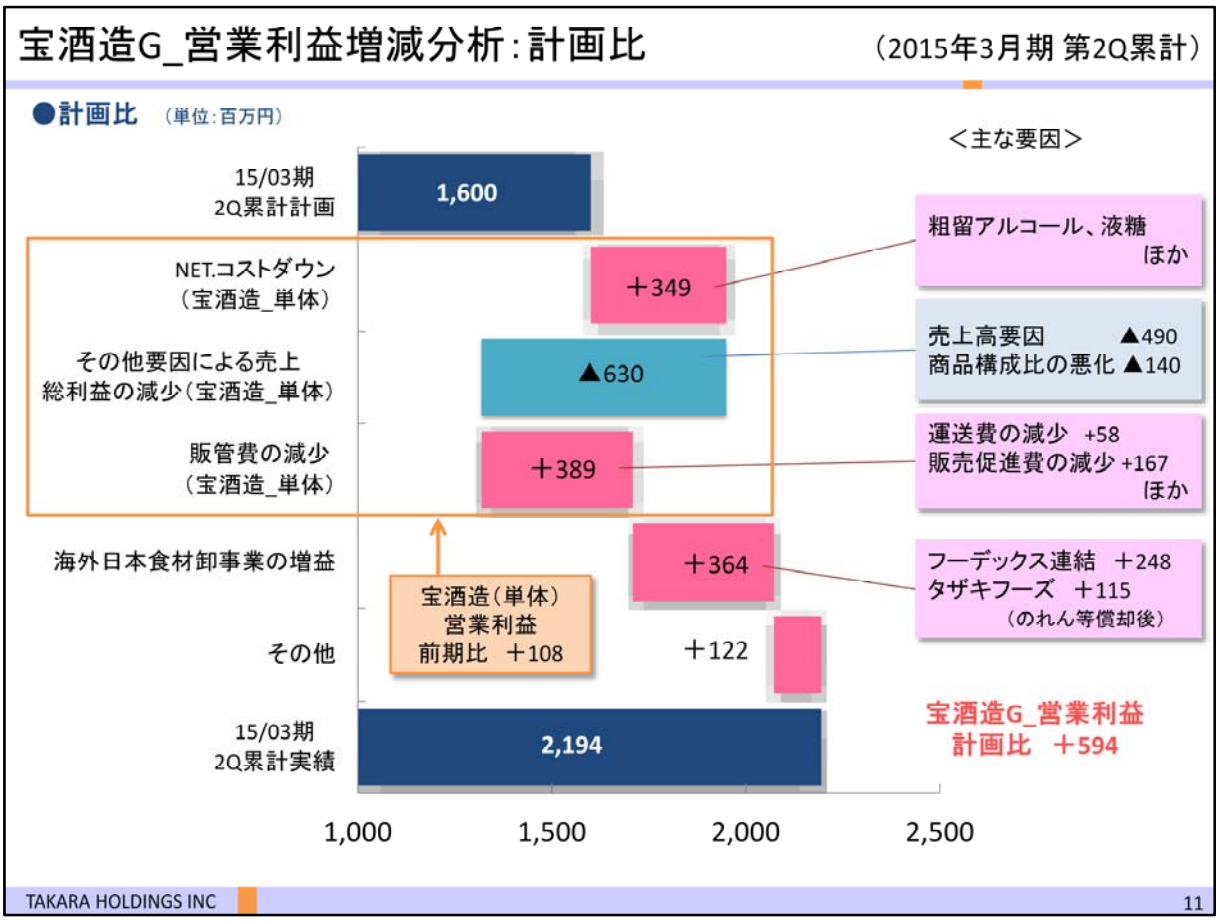
・前期比での宝酒造グループの営業利益の増減分析を説明します。

・宝酒造グループの営業利益は前期比で7億3,000万円増益となりましたが、そのうち宝酒造単体の営業利益の増加額は4,500万円でした。

・内訳としては、原材料のコストダウン等によって売上総利益が6,800万円増加した一方で、売上高の減少や商品構成の変化によって売上総利益が8億4,200万円減少しました。

・また、販売費及び一般管理費が広告宣伝費や販売促進費を中心に8億1,900万円減少しました。

・宝酒造単体以外の要因では、海外日本食材卸事業の営業利益がのれん償却後で4億9,700万円増益となりました。



・同様に、期初計画比での宝酒造グループの営業利益の増減分析の期初計画比を説明します。

・宝酒造グループ全体の営業利益は5億9,400万円増益となりましたが、そのうち宝酒造単体の営業利益の増加額は1億800万円でした。

・内訳については、売上原価が計画に比べ3億4,900万円のコストダウンとなった一方で、売上高の減少や商品構成の変化によって売上総利益が6億3,000万円減少しました。

・販売費及び一般管理費は3億8,900万円減少しました。

・宝酒造単体以外の要因では、海外日本食材卸事業の営業利益が、のれん償却後で3億6,400万円増加し、フーデックス社が連結ベースで2億4,800万円、タザキフーズ社が1億1,500万円、それぞれ期初計画を上回りました。

2. 2015年3月期 通期業績予想

宝ホールディングス連結

・宝ホールディングス連結の通期業績予想について説明します。

宝HLD連結_P/L概要：売上高～営業利益　（2015年3月期　通期業績予想）

（単位：百万円）	15/03期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
宝酒造グループ	189,300	＋6,993	＋3.8	▲ 200	▲ 0.1
タカラバイオグループ	25,200	＋1,294	＋5.4	－	－
宝ヘルスケア	1,600	＋175	＋12.3	＋20	＋1.3
その他	1,900	▲ 31	▲ 1.6	＋180	＋10.5
売上高	218,000	＋8,431	＋4.0	－	－
売上原価	133,700	＋4,252	＋3.3	▲ 300	▲ 0.2
売上総利益	84,300	＋4,178	＋5.2	＋300	＋0.4
運送費	8,300	＋591	＋7.7	＋300	＋3.8
広告宣伝費	3,600	＋53	＋1.5	－	－
販売促進費	33,500	＋545	＋1.7	－	－
研究開発費	3,800	＋423	＋12.5	▲ 200	▲ 5.0
管理費、その他	25,300	＋2,255	＋9.8	＋200	＋0.8
販売費及び一般管理費	74,500	＋3,868	＋5.5	＋300	＋0.4
宝酒造グループ	6,800	＋470	＋7.4	－	－
タカラバイオグループ	2,000	＋46	＋2.4	－	－
宝ヘルスケア	30	＋8	＋39.6	－	－
その他	970	▲ 214	▲ 18.1	－	－
営業利益	9,800	＋309	＋3.3	－	－

TAKARA HOLDINGS INC　13

・連結売上高から営業利益までについて、期初計画からの変更点を中心に説明します。

・連結売上高は、宝酒造グループが2億円下回る見通しですが、グループ全体では2,180億円と期初計画のまま据え置いています。

・連結営業利益も98億円と期初計画を据え置いています。

宝HLD連結_P/L概要：経常利益～当期純利益 （2015年3月期 通期業績予想）

（単位：百万円）	15/03期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
営業利益	9,800	＋309	＋3.3	－	－
受取利息・配当金	600	＋37	＋6.7	－	－
その他営業外収益	500	▲ 59	▲ 10.7	－	－
営業外収益	1,100	▲ 22	▲ 2.0	－	－
支払利息	600	＋135	＋29.2	－	－
その他営業外費用	300	＋61	＋25.7	－	－
営業外費用	900	＋196	＋28.0	－	－
経常利益	10,000	＋90	＋0.9	－	－
特別利益	－	▲ 9,565	－	－	－
特別損失	300	▲ 532	▲ 64.0	－	－
税金等調整前当期純利益	9,700	▲ 8,942	▲ 48.0	－	－
法人税等	3,700	▲ 3,935	▲ 51.5	－	－
少数株主利益	700	▲ 26	▲ 3.6	－	－
当期純利益	5,300	▲ 4,980	▲ 48.4	－	－

TAKARA HOLDINGS INC 14

・営業外収益から当期純利益までについても、経常利益は100億円、当期純利益は53億円と期初計画を据え置いています。

2. 2015年3月期 通期業績予想

宝酒造グループ

・宝酒造グループの業績予想について説明します。

宝酒造G_P/L概要

（2015年3月期　通期業績予想）

（単位：百万円）	15/03期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
焼酎	62,500	▲ 3,477	▲ 5.3	▲ 1,400	▲ 2.2
清酒	26,300	＋2,786	＋11.9	－	－
ソフトアルコール飲料	26,000	▲ 772	▲ 2.9	▲ 1,400	▲ 5.1
その他酒類	12,500	▲ 83	▲ 0.7	▲ 300	▲ 2.3
本みりん	14,300	▲ 586	▲ 3.9	－	－
その他調味料	9,000	＋354	＋4.1	▲ 300	▲ 3.2
原料用アルコール等	7,700	＋800	＋11.6	＋400	＋5.5
海外日本食材卸	16,900	＋7,822	＋86.2	＋2,400	＋16.6
その他	14,100	＋149	＋1.1	＋400	＋2.9
売上高	189,300	＋6,993	＋3.8	▲ 200	▲ 0.1
売上原価	120,400	＋3,780	＋3.2	▲ 600	▲ 0.5
売上総利益	68,900	＋3,213	＋4.9	＋400	＋0.6
運送費	7,600	＋532	＋7.5	＋200	＋2.7
広告宣伝費	3,100	▲ 15	▲ 0.5	－	－
販売促進費	32,500	＋610	＋1.9	－	－
研究開発費	400	＋58	＋17.1	－	－
管理費、その他	18,500	＋1,556	＋9.2	＋200	＋1.1
販売費及び一般管理費	62,100	＋2,742	＋4.6	＋400	＋0.6
営業利益	6,800	＋470	＋7.4	－	－

TAKARA HOLDINGS INC　16

・連結売上高から営業利益までについて、期初計画からの変更点を中心に説明します。

・売上高は、焼酎とソフトアルコール飲料などを下方に修正する一方で、日本食材卸事業を上方へ見直し、売上高トータルは期初計画から2億円マイナスの1,893億円としています。

・売上原価や販売費及び一般管理費についても若干の見直しをしておりますが、営業利益は期初計画を据え置き68億円としています。

宝酒造G_P/L概要

（2015年3月期　通期業績予想）

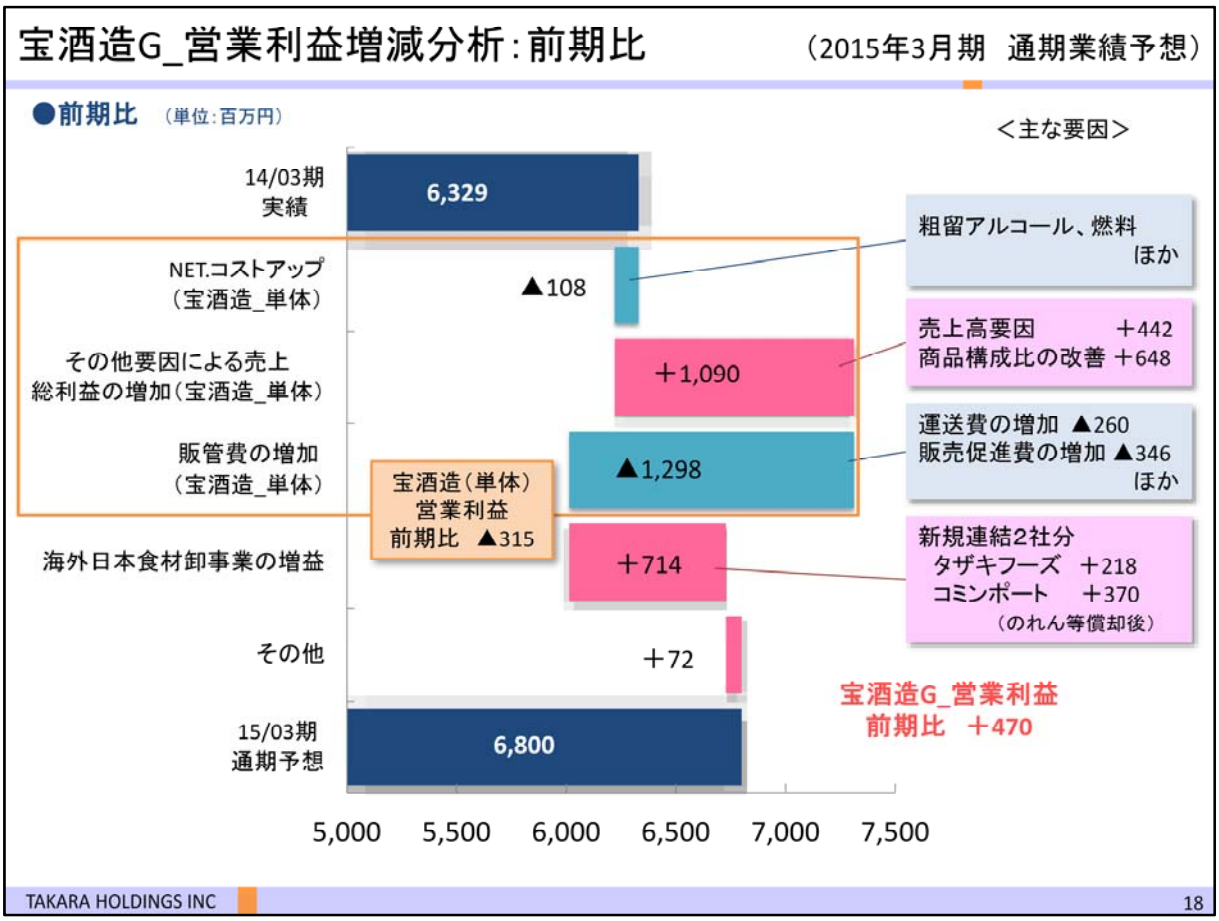
（単位：百万円）	15/03期 通期予想	前期比 増減	前期比 うち為替影響額	期初計画比 増減	期初計画比 うち為替影響額
焼酎	62,500	▲ 3,477	＋10	▲ 1,400	＋12
清酒	26,300	＋2,786	＋123	－	＋152
ソフトアルコール飲料	26,000	▲ 772	＋1	▲ 1,400	＋2
その他酒類	12,500	▲ 83	＋410	▲ 300	＋453
本みりん	14,300	▲ 586	＋24	－	＋28
その他調味料	9,000	＋354	＋16	▲ 300	＋18
原料用アルコール等	7,700	＋800	＋0	＋400	＋0
海外日本食材卸事業	16,900	＋7,822	＋806	＋2,400	＋1,325
その他	14,100	＋149	－	＋400	－
売上高	189,300	＋6,993	＋1,395	▲ 200	＋1,993

◆売上高の主な増減要因　（単位：百万円）

前期比	焼酎	飲用甲類	▲ 2,069	期初計画比	焼酎	飲用甲類	▲ 196
		本格焼酎	＋44			本格焼酎	▲ 694
	清酒	澪	＋2,750				
	ｿﾌﾄｱﾙｺｰﾙ飲料	焼酎ﾊｲﾎﾞｰﾙ	＋1,528		ｿﾌﾄｱﾙｺｰﾙ飲料	焼酎ﾊｲﾎﾞｰﾙ	＋246
		直搾り、果莉那、すりおろし　など	▲ 1,984			直搾り、果莉那、すりおろし　など	▲ 1,477
	海外日本食材卸	新規連結2社分	＋6,274				

TAKARA HOLDINGS INC　17

・為替レート変動による売上高の増収効果は、前期比では13億9,500万円、期初計画比では19億9,300万円となる見込みです。



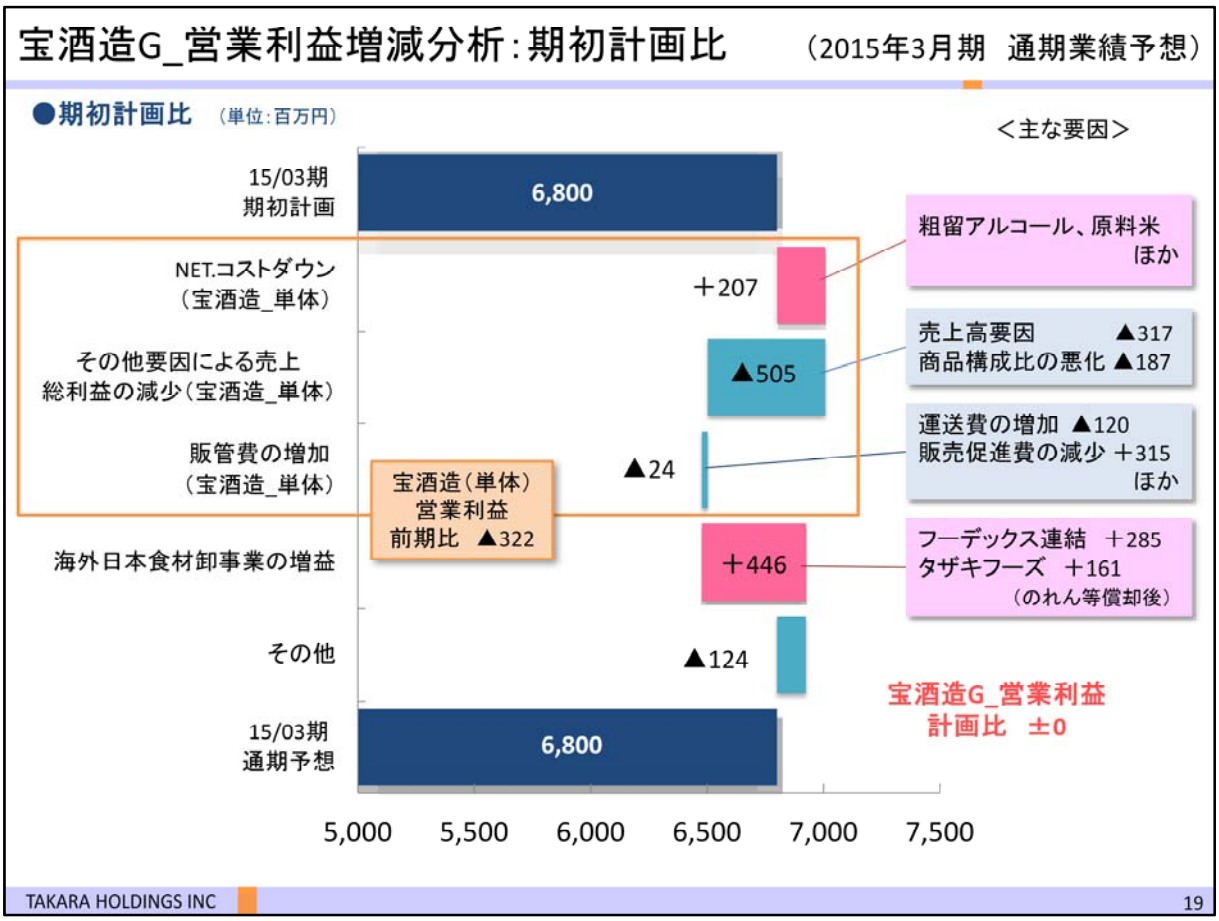
・前期比での営業利益の増減分析を説明します。

・宝酒造グループの営業利益は前期比で4億7,000万円増益となる見込みですが、そのうち宝酒造単体の営業利益は3億1,500万円減益となる見込みです。

・内訳については、粗留アルコールなどの原材料や燃料の価格変動などによるコストアップがネットで1億800万円発生する一方、売上高の増加や商品構成の変化による売上総利益の増加を10億9,000万円と見込んでいます。

・販売費及び一般管理費は、運送費や販売促進費を中心に12億9,800万円増加する計画としています。

・宝酒造単体以外の要因では、海外日本食材卸事業の営業利益がのれん償却後で7億1,400万円増益となる見込みです。



・期初計画比での営業利益の増減分析を説明します。

・宝酒造グループの営業利益は期初計画を据え置くこととしていますが、宝酒造単体の営業利益は期初計画を3億2,200万円下回る見込みです。

・内訳については、売上原価が計画に比べ2億700万円のコストダウンとなる一方で、売上高の計画未達や商品構成の変化によって売上総利益が5億500万円減少する見込みです。

・販売費及び一般管理費も2,400万円増加する計画です。

・宝酒造単体以外の要因では、海外日本食材卸事業の、のれん償却後の営業利益が期初計画比で4億4,600万円増加する見込みです。

3．2015年3月期 第2四半期業績概況 および通期業績予想

宝ヘルスケア

・宝ヘルスケアの業績概況と通期業績予想を合わせて説明します。

宝ヘルスケアの業績概況　（2015年3月期　第2Q累計実績・通期業績予想）

（単位：百万円）	15/03期 2Q累計実績	前期比		期初計画比	
		増減	率(%)	増減	率(%)
売上高	810	+ 135	+ 20.1	+ 40	+ 5.2
営業利益	30	+ 35	ー	+ 22	+ 287.3

（単位：百万円）	15/03期 通期予想	前期比		期初計画比	
		増減	率(%)	増減	率(%)
売上高	1,600	+ 175	+ 12.3	+ 20	+ 1.3
営業利益	30	+ 8	+ 39.6	ー	ー

➢ **2Q累計実績**
- ガゴメ昆布「フコイダン」シリーズ通販売上高（2Q累計）：前期比+8.3%
- ボタンボウフウ「イソサミジン」通販売上高（2Q累計）：前期比＋379.5%
- 法人向けOEM事業が大幅増

➢ **通期予想**
- 積極的な広告宣伝や、タカラバイオと連動した顧客フォローにより、さらなる伸長を目指す。

TAKARA HOLDINGS INC　21

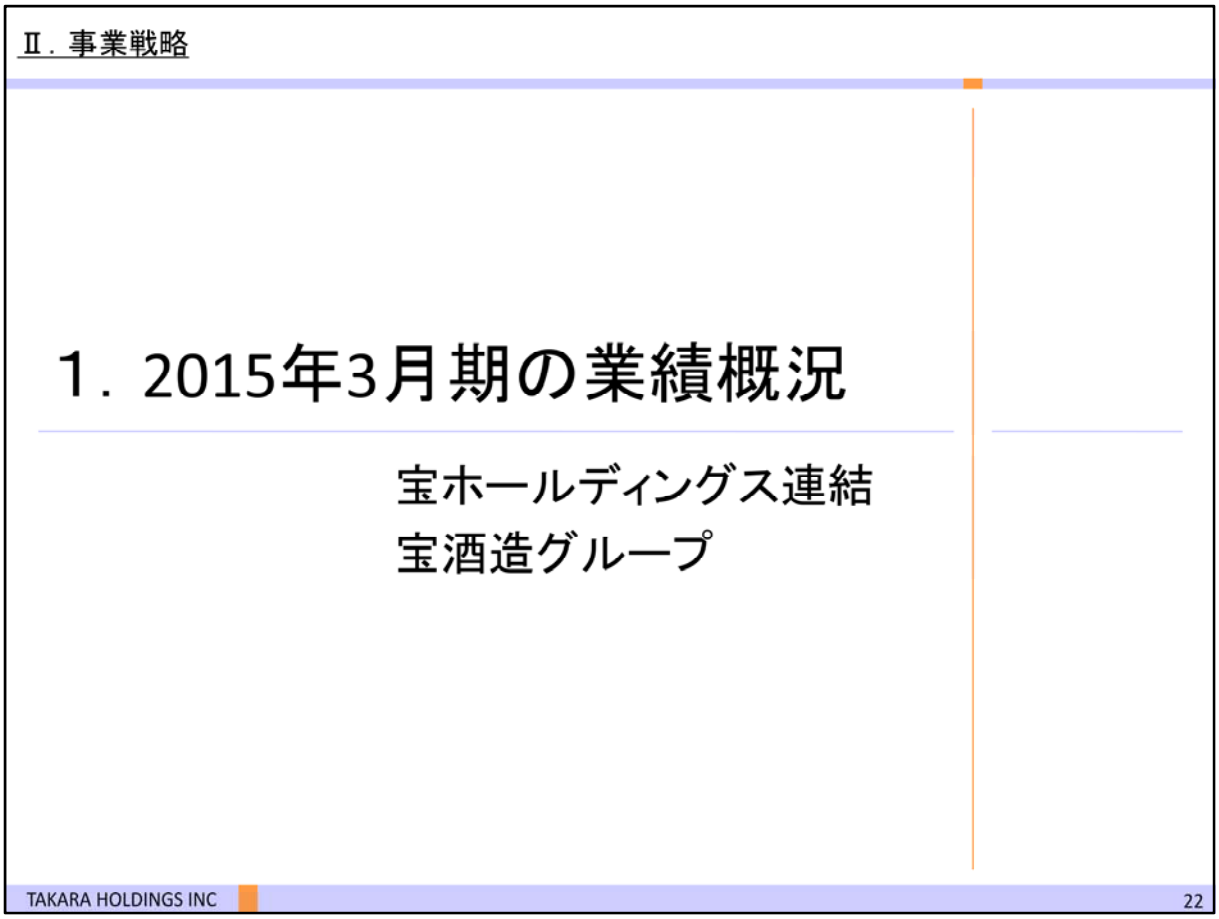
＜第2四半期累計業績概況＞

・売上高は8億1,000万円で、前期比1億3,500万円の増収、期初計画比でも4,000万円の増加となりました。

・営業利益は、3,000万円の黒字を確保しました。

＜通期業績予想＞

・売上高16億円、営業利益3,000万円を見込んでいます。



【事業戦略　　発表者:代表取締役社長　柿本　敏男】

当期の進捗状況について確認した後、主に戦略面について説明します。

宝HLD連結_業績概況　（2015年3月期　第2Q累計実績・通期業績予想）

（単位：百万円）	15/03期 2Q累計実績	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)	15/03期 通期予想	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
宝酒造グループ	88,515	＋215	＋0.2	189,300	▲ 200	▲ 0.1
タカラバイオグループ	10,971	▲ 67	▲ 0.6	25,200	－	－
宝ヘルスケア	810	＋40	＋5.2	1,600	＋20	＋1.3
その他	833	▲ 58	▲ 6.5	1,900	＋180	＋10.5
売上高	101,130	＋130	＋0.1	218,000	－	－
宝酒造グループ	2,194	＋594	＋37.1	6,800	－	－
タカラバイオグループ	625	＋168	＋36.8	2,000	－	－
宝ヘルスケア	30	＋22	＋287.3	30	－	－
その他	425	▲ 79	▲ 15.8	970	－	－
営業利益	3,275	＋705	＋27.5	9,800	－	－

➢ **2Q累計実績**

- 売上高は、宝酒造G、タカラバイオGともに国内の売上高未達を海外子会社がカバーし、ほぼ期初計画通り。
- 営業利益は、原材料のコストアップが計画の範囲内に収まったこと等により、各事業グループで期初計画を上回る。

➢ **通期予想**

- 海外子会社は期初計画を上回る見通しだが、国内の消費動向への不透明感や、原材料等のコストアップ要因もあることから、売上高、営業利益とも期初計画を据置。

TAKARA HOLDINGS INC　23

・宝ホールディングス連結の第2四半期累計期間の業績と、通期の業績予想について確認します。

＜第2四半期累計期間の業績＞

・売上高は、宝酒造グループ、タカラバイオグループともに、国内の売上未達を海外子会社がカバーするといった形でほぼ期初計画通りとなりました。

・営業利益は、計画に織り込んでいた原材料等のコストアップが計画の範囲内に収まったことや、販管費の減少により、宝酒造グループ、タカラバイオグループともに期初計画を上回りました。

＜通期の業績予想＞

・海外子会社は期初計画を上回る予想ですが、国内の消費動向については、依然不透明感が残ること、さらに原材料などのコストアップ要因もあることから、通期の売上、利益を期初計画のまま据え置くこととしました。

宝酒造G_業績概況　（2015年3月期　第2Q累計実績・通期業績予想）

（単位：百万円）	15/03期 2Q累計実績	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)	15/03期 通期予想	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
焼酎	31,090	▲ 109	▲ 0.4	62,500	▲ 1,400	▲ 2.2
清酒	9,168	▲ 31	▲ 0.3	26,300	－	－
ソフトアルコール飲料	13,375	▲ 724	▲ 5.1	26,000	▲ 1,400	▲ 5.1
その他酒類	6,335	＋35	＋0.6	12,500	▲ 300	▲ 2.3
本みりん	6,465	▲ 34	▲ 0.5	14,300	－	－
その他調味料	4,107	▲ 192	▲ 4.5	9,000	▲ 300	▲ 3.2
原料用アルコール等	3,171	▲ 28	▲ 0.9	7,700	＋400	＋5.5
海外日本食材卸	8,390	＋1,290	＋18.2	16,900	＋2,400	＋16.6
その他	6,409	＋9	＋0.2	14,100	＋400	＋2.9
売上高	88,515	＋215	＋0.2	189,300	▲ 200	▲ 0.1
営業利益	2,194	＋594	＋37.1	6,800	－	－

- **2Q累計実績**
  - 消費税増税後の反動減を計画に織り込んだ第１四半期は計画を上回ったものの、第２四半期に入っても個人消費の回復には部分的に遅れがあり、国内酒類事業は計画未達。
  - 好調の海外日本食材卸事業の売上増加により、国内の計画未達を補う。
- **通期予想**
  - 海外は好調が持続すると見込むが、これから最需要期を迎える国内酒類事業の市場環境は予断を許さない状況であり、グループ全体では売上高を若干下方修正、営業利益は期初計画を据置。

TAKARA HOLDINGS INC　24

・宝酒造グループの第2四半期累計期間の業績と、通期の業績予想について確認します。

＜第2四半期累計期間の業績＞

・国内の売上高については、消費税増税後の反動減を計画に織り込んだ第1四半期は計画を上回ったものの、第2四半期に入っても一部で回復に遅れがあり、計画未達となりました。

・この計画未達を、海外日本食材卸事業の売上増加で補う形となりました。

＜第2四半期累計期間の業績＞

・これから年末にかけて最需要期を迎える国内酒類事業の市場環境は、依然として予断を許さない状況と見ています。

・海外は引き続き好調に推移すると見込むものの、宝酒造グループ全体の通期予想については、売上高を若干下方修正、営業利益については期初計画を据え置いています。

２．2015年3月期の事業戦略

宝ホールディングス連結

・宝ホールディングス連結の事業戦略について説明します。

TaKaRaグループ中期経営計画2016（2014.04~2017.03）の方針

基本方針

「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向けて、
国内では収益力の向上、海外では事業の拡大・伸長に取り組むとともに、
バイオ事業の成長加速により
環境変化に強いバランスのとれた事業構造に変革していく

定量目標

2017年3月期　TaKaRaグループ連結

売上高 2,300億円以上　営業利益 120億円以上　海外売上高比率 16%以上

事業戦略

宝酒造グループ	技術で差異化された商品の開発・育成により、国内事業の収益力を向上させるとともに、日本食材卸網を積極的に拡大し、海外事業を大きく伸長させる
タカラバイオグループ	再生・細胞医療分野へ戦略的な投資を行い、バイオ事業の成長を加速させる
宝ヘルスケア	ダイレクトマーケティングを通じて、健康食品事業の成長を加速させる

TAKARA HOLDINGS INC　26

・本年よりスタートさせた「TaKaRaグループ中期経営計画2016」の概要について確認します。

＜基本方針＞

「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向けて、
国内では収益力の向上、海外では事業の拡大・伸長に取り組むとともに、
バイオ事業の成長加速により
環境変化に強いバランスのとれた事業構造に変革していく

＜2017年3月期　定量目標＞

連結売上高　2,300億円以上

連結営業利益　120億円以上

海外売上高比率　16%以上

＜各グループの事業戦略＞

➢宝酒造グループ

「技術で差異化された商品の開発・育成により、国内事業の収益力を向上させるとともに、日本食材卸網を積極的に拡大し、海外事業を大きく伸長させる」

➢タカラバイオグループ

「再生・細胞医療分野へ戦略的な投資を行い、バイオ事業の成長を加速させる」

➢宝ヘルスケア

「ダイレクトマーケティングを通じて、健康食品事業の成長を加速させる」

・目標達成のために4つの重点戦略を掲げ、実行しています。

＜重点戦略＞

➢「澪」を中心とした清酒売上高の拡大

・澪については、増産体制を整えるための設備投資や、セールスプロモーション投資を行い、さらなる売上拡大を図ります。

➢欧米をはじめとする世界での日本食材卸網構築

・今後も積極的に、グループとして取り組むべき企業を模索するとともに、既にあるグループ会社の業績拡大、シナジー効果の追求も行っていきます。

➢バイオ医薬品の開発支援サービス（CDMO事業）拡大

・滋賀県草津市に、遺伝子・細胞プロセッシングセンターを新設し、10月より稼働させています。

➢遺伝子治療・細胞医療における臨床開発の推進

・治験のステージにある、HF10、MazF遺伝子治療等に加え、臨床研究のステージにある各プロジェクトへも、積極的な研究開発投資を行っていきます。

・国内外の重点戦略に、積極的な投資を行うことによって、環境変化に強い、バランスのとれた事業構造への変革を、進めています。

２．2015年3月期の事業戦略

宝酒造グループ

・宝酒造グループの事業戦略について説明します。

宝酒造グループ中期経営計画2016（2014.04~2017.03）の方針

基本方針

技術で差異化された商品の開発・育成により、国内事業の収益力を向上させるとともに、日本食材卸網を積極的に拡大し、海外事業を大きく伸長させる

定量目標

2017年3月期　宝酒造グループ

売上高 2,000億円以上　**営業利益 85億円以上**　**海外売上高比率 12%以上**

事業戦略

国内酒類事業	**“松竹梅白壁蔵「澪」スパークリング清酒”**を中心に清酒の売上高を拡大する
	当社独自の技術力・開発力および商品育成力を高め、差異化された商品の開発、ブランド育成によって**収益力の向上**を図る
調味料・酒精事業	拡大が予想される中食市場に対し、**機能性調味料の拡充**によって調味料事業の成長を進める
	酒精事業では原材料価格の変動に対して機動的に対応していく
海外事業	日本食市場の広がりを背景に、**海外和酒カテゴリーでのシェア拡大**を加速させる
	欧米をはじめとする**世界での日本食材卸網構築に向け、積極的な投資**を行う

TAKARA HOLDINGS INC　29

・宝酒造グループの「中期経営計画2016」の方針を確認します。

＜基本方針＞

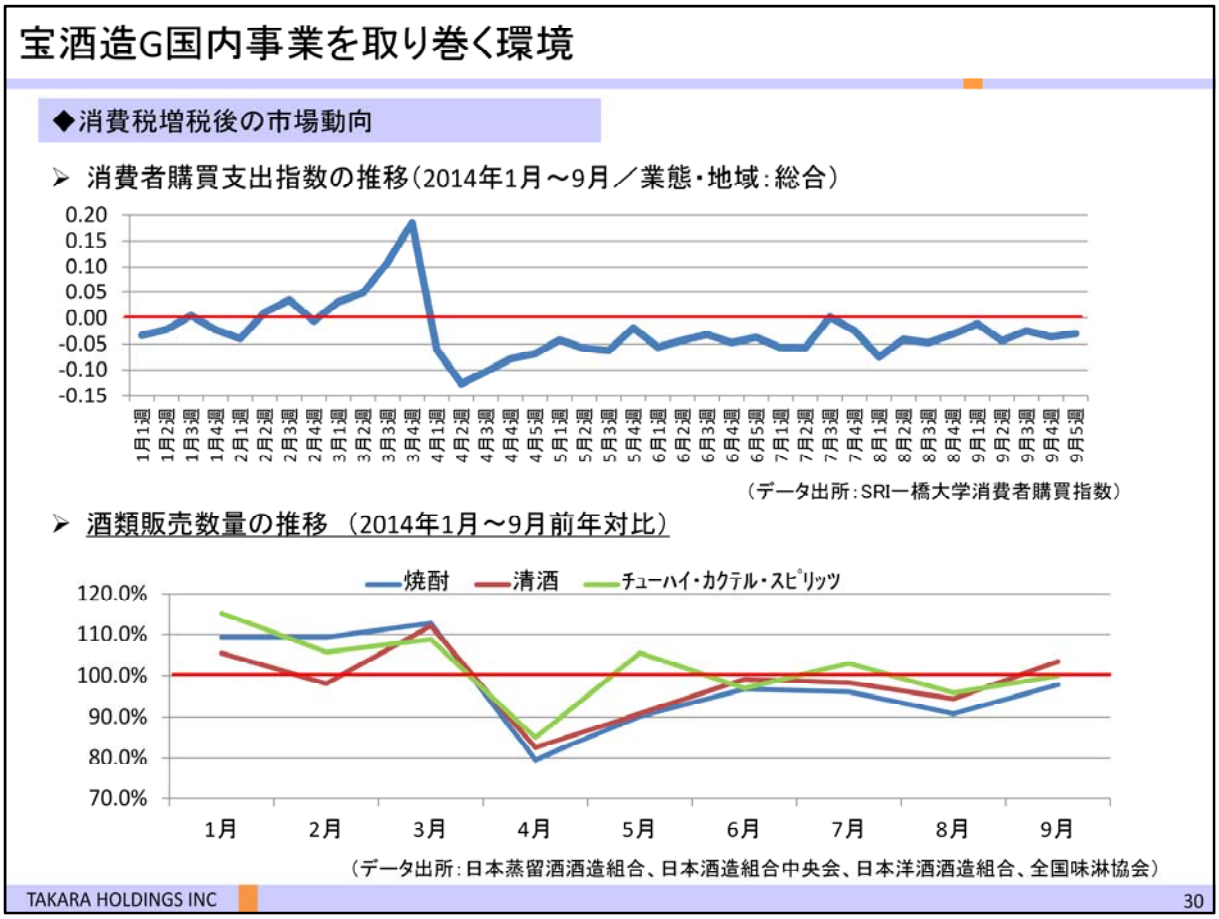
技術で差異化された商品の開発・育成により、国内事業の収益力を向上させるとともに、
日本食材卸網を積極的に拡大し、海外事業を大きく伸長させる

＜2017年3月期　定量目標＞

連結売上高　2,000億円以上

連結営業利益　85億円以上

海外売上高比率　12%以上



・国内酒類事業を取り巻く環境について確認します。

・上のグラフは、一般消費財全般についての消費者購買支出指数の推移を表したものです。消費税増税後の消費水準の低迷が9月になっても続いていることが、分かります。

・下のグラフは、焼酎、清酒、カンチューハイ類の販売数量の推移について、業界数字をまとめたものです。酒類についても同様に、消費税増税の影響に加え、夏場の天候不順も影響しているものと見ています。

・また、焼酎や清酒などの市場は、少子化・高齢化による飲酒人口の減少や、若者のアルコール離れなどの影響により、年々縮小する傾向にあります。

・こうした状況の中で、当社は独自の技術力・開発力および商品育成力を高め、差異化された商品の開発、ブランド育成による、収益力の向上に取り組んでいます。

国内酒類事業（清酒）

重点戦略　「澪」を中心とした清酒売上高の拡大

◆生産拠点への設備投資による増産体制の確立

- 年間生産量200万ケース体制の確立に向け、増産体制を構築。
- 当期の生産数量は最大130万ケース。

＜白壁蔵（神戸市東灘区）＞

＜「澪」売上実績（2015年3月期2Q累計）＞

	15/03期 2Q累計実績	前期比	
		増減	率
売上高（百万円）	1,704	+895	+110.5%
売上数量（千ケース）	430	+227	+111.7%

※1ケース：300ml×12本入換算

◆積極的プロモーションによる販売拡大

- 女優の杏（あん）さんを広告タレントに継続起用し、年末の需要期に向けプロモーションを展開
- 地上波、BS・CSへのCM投入のほか、大規模サンプリングの実施により、商品認知率の向上と飲用実体験の促進を図る

・カテゴリー別の戦略について説明します。

・清酒については、重点戦略の一つとして、「澪」を中心とした清酒売上高の拡大に取り組んでいます。

・昨年9月に販売ルートを拡大した、低アルコールのスパークリング清酒　松竹梅白壁蔵「澪」は、お客様のご好評を得て、当社の生産能力を超えるご注文をいただいておりましたが、設備増強による増産体制が整い、通年で200万ケースの生産体制を確立しました。

・これから年末の最需要期を迎えるにあたり、テレビCMや、店頭でのプロモーション活動、大規模なサンプリングなどを積極的に展開し、よくお酒を飲まれる方も、ふだんあまりお酒を飲まれない方も含め、幅広くユーザーを獲得し、ファンの拡大を図ってまいります。

・「澪」の育成に取り組むとともに、他の清酒の商品開発、育成にも注力し、清酒全体の売上高を拡大します。

・松竹梅「天」は、この秋からパッケージをリニューアルしました。

・9月からは、松竹梅「天」＜糖質70％オフ＞を新たに発売しました。

・近年、ビール系飲料やチューハイのカテゴリーでは、糖質オフや糖質ゼロを訴求した商品が注目を集め、多くの商品が発売されています。糖質をカットした清酒の認知度はまだ低いものの、潜在的なニーズがあると考え今回の発売に至りました。

・国内清酒市場は、前年を下回って推移していますが、こうした取り組みによって新しいユーザーを獲得し、通期前年比で12％増を目指します。

・焼酎について説明します。

・国内の焼酎市場は2004年頃をピークに縮小が続いています。

・当社は「宝焼酎ゴールデン」や、昨年来好調の「一刻者＜赤＞」に500mlサイズのミニボトルを発売したり、「よかいち」をリニューアルするなど、新たな需要を喚起すべく、商品展開を、進めています。

・ソフトアルコール飲料について説明します。

・ソフトアルコール飲料の市場は近年拡大傾向にあり、この夏には高アルコール・辛口タイプの商品が各社から投入されるなど、今後も伸長が期待されます。

・当社においても、辛口タイプの「タカラ焼酎ハイボール」は引き続き好調で、前年比11％増となりました。今後も、テレビCMや限定商品の発売などにより、ブランド育成を継続してまいります。

・また、パウチ入りタイプで新発売したジュレのお酒「果莉那　ーCarinaー」などにより、消費者の新たなニーズの発掘にも注力してまいります。

国内酒類事業（家庭用調味料）、調味料・酒精事業

◆家庭用調味料

- 本みりん
  - 本みりんパウチのキャップを改良し、使いやすくリニューアル

タカラ本みりん「醇良」
500mlエコパウチ
（9月以降順次リニューアル）

▽販売数量の市場比較（前年同期比）
～本みりん～

- 市場　▲3.5%　（4-9月）
- 宝酒造（単体）　▲4.0%　（4-9月）

＜市場データ出所＞　全国味淋協会

◆調味料・酒精事業

- 調味料（加工業務用調味料）事業
  - 従来のだし調味料に併せ、「ごはん炊き立て上手<やわらか>」等こうじ調味料のラインナップを強化

「だししるべK-耐熱」

「ごはん炊き立て上手〈やわらか〉」

- 酒精（原料用アルコール等）事業
  - 円安等の影響による原材料価格の変動に機動的に対応
  - 工業用アルコール分野では99%アルコールと95%アルコールのラインアップによる新規開拓加速
  - 酒類用アルコールでは、清酒ユーザーとともに、清酒以外のユーザー開拓を継続

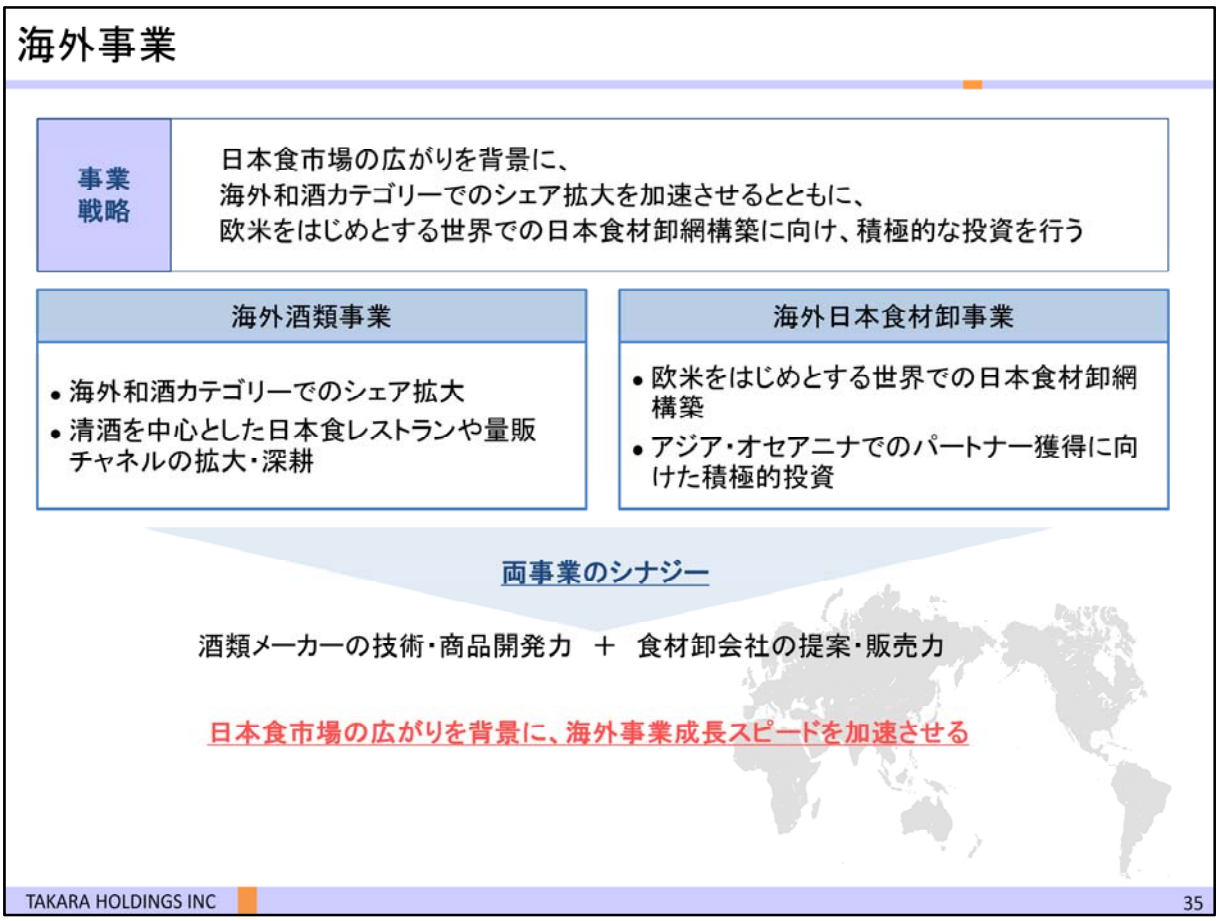
TAKARA HOLDINGS INC　34

・調味料について説明します。

・家庭用調味料では、消費税増税時の前倒し需要の反動もあり、本みりんが前年を下回って推移していますが、本みりんエコパウチのキャップを使いやすくリニューアルするなど、お客様の視点に立った、付加価値の高い商品づくりに引き続き努めてまいります。

・B to Bの加工業務用調味料については、加工食品メーカーや中食メーカーといった顧客のニーズに合わせ、こうじ調味料など機能性の高い調味料の品揃え拡充に注力しています。

・酒精事業では、原料となる粗留アルコールの輸入価格が円安の影響により上昇しており、順次販売価格への転嫁を進めています。また並行して、工業用アルコール、酒類用アルコール双方での新規ユーザーの開拓を継続します。



・海外事業について説明します。

・海外では、国内外で製造した当社の酒類・調味料を販売する「海外酒類事業」と、海外の和食レストランなどに和食の食材・調味料などを販売する「海外日本食材卸事業」の2つの柱で、事業の拡大に取り組んでいます。

・特に海外日本食材卸事業の拡大については、積極的な投資なども含め、スピード感を持って取り組んでまいります。

海外事業

重点戦略　欧米をはじめとする世界での日本食材卸網構築

◆海外日本食材卸事業の概況（フーデックス連結＋タザキフーズ）

（単位：百万円）	15/03期 2Q累計実績	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)	15/03期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)
売上高	8,390	＋5,044	＋150.8	＋1,290	＋18.2	16,900	＋7,822	＋86.2	＋2,400	＋16.6
営業利益	977	＋641	＋190.9	＋367	＋60.3	1,700	＋926	＋119.9	＋470	＋38.2
のれん償却費等	218	＋144	＋194.9	＋3	＋1.5	450	＋212	＋89.4	＋20	＋4.7
のれん償却後営業利益	759	＋497	＋189.7	＋364	＋92.3	1,250	＋714	＋133.4	＋450	＋56.3

➢ **現地通貨ベースでの各社の売上高（前年比・計画比）**

※コミンポート、タザキフーズの前年比は連結前数値との比較

- フーデックス（コミンポート除く）
  ＜2Q実績＞前年比109.7%　計画比105.2%　　＜通期見込＞前年比110.4%　計画比104.3%
- コミンポート
  ＜2Q実績＞前年比121.2%　計画比124.9%　　＜通期見込＞前年比132.6%　計画比126.3%
- タザキフーズ
  ＜2Q実績＞前年比119.3%　計画比102.4%　　＜通期見込＞前年比111.4%　計画比100.0%

TAKARA HOLDINGS INC　36

・海外日本食材卸事業の概況です。

・今期より、コミンポート社とタザキフーズ社が新たに連結に加わったことにより、上期の業績は前期から大きく伸長しました。

・通期の売上高の計画は、コミンポート社を含むフーデックス連結とタザキフーズ社の合計で、169億円を見込んでいます。

・営業利益は17億円、のれん償却後の営業利益は12億5,000万円を見込んでおり、比較的高い営業利益率が特徴となっています。

・ヨーロッパでは日本食が人気で急速に広まっていますが、その広まりとともに、高級な日本食レストランだけでなく、相対的に利益率の低い、チェーン店やテイクアウェイ型の店も増えてきており、このような業態との取引も増加してきています。

・売り上げの拡大と、利益率の維持のバランスが、課題だと考えています。

・ヨーロッパでの拡大に加え、アメリカでは持分法適用会社のミューチャル・トレーディング社との連携の強化と、アジア・オセアニア地域への販売網の構築を進めていきます。

海外事業

（2015年3月期　第2Q累計実績・通期業績予想）

（単位：百万円）	15/03期 2Q累計実績	前期比 増減	前期比 率(%)	前期比 うち為替影響	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)	期初計画比 うち為替影響
焼酎	118	▲ 9	▲ 7.2	+6	▲ 21	▲ 15.1	+5
清酒	1,055	+57	+5.8	+67	+15	+1.5	+59
ソフトアルコール飲料	29	▲ 2	▲ 6.8	+1	+5	+23.4	+0
その他酒類	2,386	+318	+15.4	+250	+226	+10.5	+209
本みりん	235	▲ 4	▲ 1.9	+14	▲ 4	▲ 1.9	+11
その他調味料	148	+10	+7.5	+9	+4	+2.9	+7
原料用アルコール等	7	+0	+6.4	+0	+0	+10.5	+0
海外酒類事業	3,982	+371	+10.3	+349	+227	+6.1	+295
海外日本食材卸	8,390	+5,044	+150.8	+440	+1,290	+18.2	+711
売上高	12,372	+5,415	+77.8	+790	+1,517	+14.0	+1,007

（単位：百万円）	15/03期 通期予想	前期比 増減	前期比 率(%)	前期比 うち為替影響	期初計画比 増減	期初計画比 率(%)	期初計画比 うち為替影響
焼酎	233	▲ 21	▲ 8.4	+10	▲ 48	▲ 17.1	+12
清酒	2,325	+215	+10.2	+123	+166	+7.7	+152
ソフトアルコール飲料	54	▲ 5	▲ 8.7	+1	+5	+10.2	+2
その他酒類	4,784	+579	+13.8	+410	+516	+12.1	+453
本みりん	499	+21	+4.4	+24	▲ 5	▲ 1.0	+28
その他調味料	312	+25	+9.0	+16	+5	+1.6	+18
原料用アルコール等	12	+0	+0.9	+0	+0	+4.2	+0
海外酒類事業	8,220	+816	+11.0	+589	+640	+8.4	+668
海外日本食材卸	16,900	+7,822	+86.2	+806	+2,400	+16.6	+1,325
売上高	25,120	+8,638	+52.4	+1,395	+3,040	+13.8	+1,993

TAKARA HOLDINGS INC　37

・海外酒類事業を含めた、海外事業全体の業績の概況です。

・上期の海外酒類事業の売上高は、前期・計画ともに上回りました。

・海外での清酒販売は上期は微増にとどまりましたが、「その他酒類」に含まれるスコットランド・トマーチン社のウィスキーの売上が増加しました。

・下期には、主に米国での清酒販売の拡大を見込むほか、清酒以外の売上も上期の好調な状況が続くと見ており、通期の海外酒類事業の売上高は前期・計画ともに上回る見込みです。

２．2015年3月期の事業戦略

宝ヘルスケア

・宝ヘルスケアの事業戦略について説明します。

・宝ヘルスケアの「中期経営計画2016」の方針について確認します。

＜基本方針＞

ダイレクトマーケティングを通じて、健康食品事業の成長を加速させる

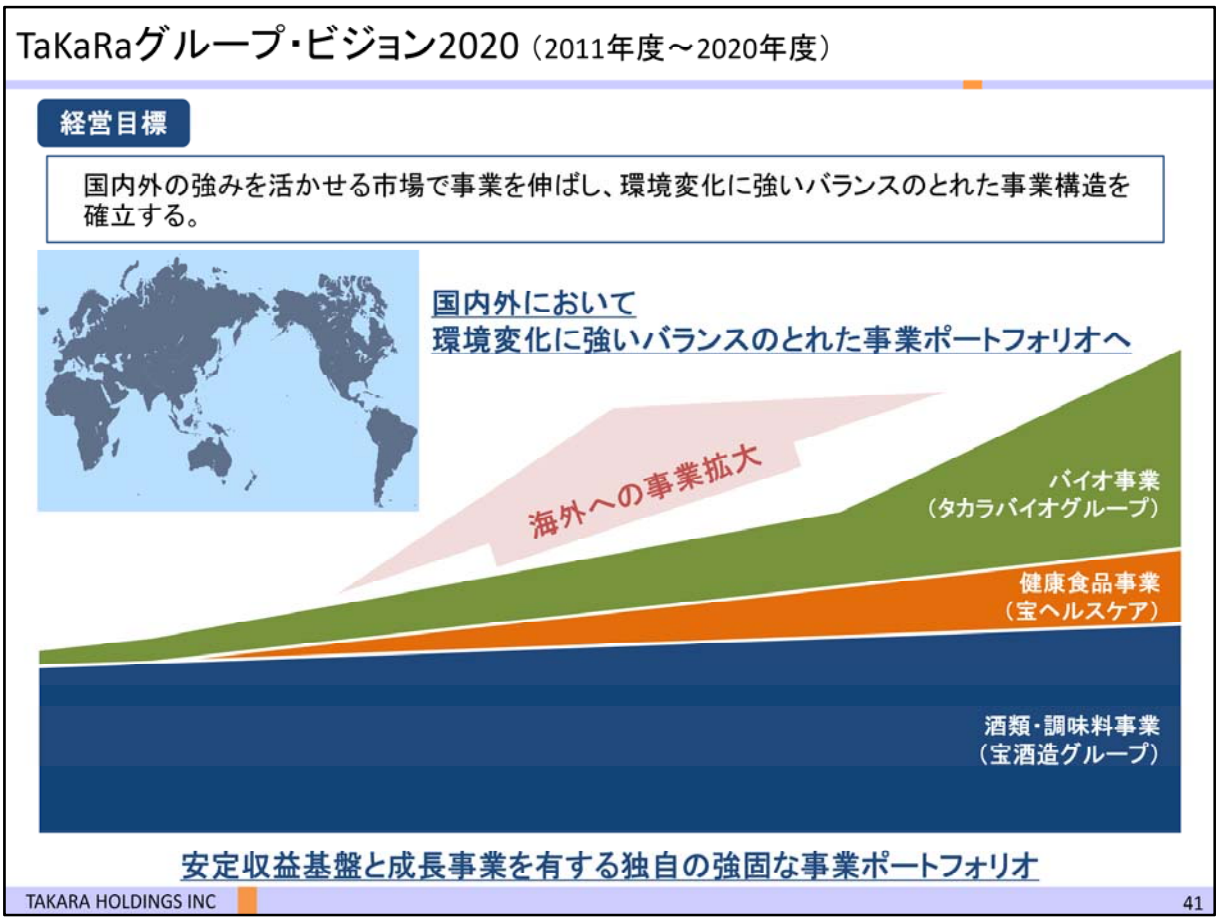
＜2017年3月期 定量目標＞

売上高20億円以上、営業利益1億円以上

・通信販売事業の成長を加速させるべく、ガゴメ昆布「フコイダン」シリーズに最注力する一方で、フコイダンに続く第2の事業の柱として、ボタンボウフウ「イソサミジン」シリーズの育成を進めており、様々な広告媒体への展開を、戦略的、継続的に行ってまいります。

3．TaKaRaグループ・ビジョン2020 の実現に向けて

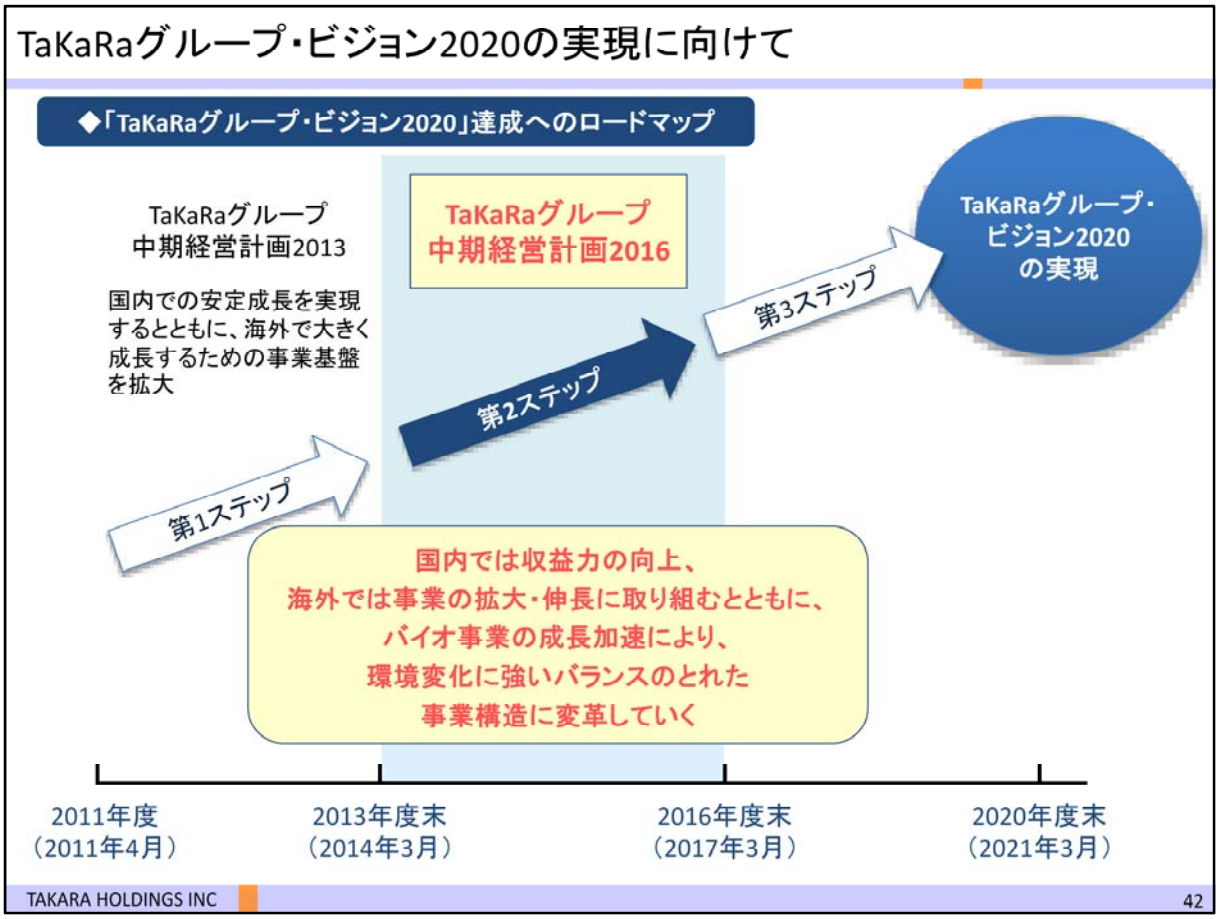
・最後に、当社の経営ビジョンについて確認します。



・当社は2011年4月に、10年間の長期経営ビジョンである「TaKaRaグループ・ビジョン2020」をスタートさせました。

・目標は「国内外の強みを活かせる市場で事業を伸ばし、環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立する」ことです。

・酒類・調味料事業という基盤事業と、バイオ事業と健康食品事業という将来性のある成長・育成事業を併せ持つ、独自の強固な事業ポートフォリオをさらに強化していくことで、国内外において環境変化に強い、バランスのとれた事業構造を確立し、企業価値の向上を図ってまいります。



・今期より「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向けた第2ステップとして「TaKaRaグループ中期経営計画2016」をスタートさせました。

・この第2ステップで目指すのは、「環境変化に強いバランスのとれた事業構造への変革」です。

・「TaKaRaグループ・ビジョン2020」を実現するためには、この中計は非常に重要な位置づけにあると考えています。

・先に述べた4つの重点戦略をはじめ、各グループの施策を着実に、またスピード感をもって推進し、

「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の目標を何としても達成する所存です。

【以上】

＜参考資料＞

宝HLD連結_包括利益計算書、BS概要、CF概要
為替前提（子会社P/L換算レート）
粗留アルコール輸入（CIF）価格の推移
財務方針

宝HLD連結_包括利益計算書

（2015年3月期 第2Q累計）

（単位:百万円）	14/03期 2Q累計実績	15/03期 2Q累計実績	増減
少数株主損益調整前当期純利益	6,734	**2,110**	▲ 4,624
その他の包括利益合計	10,825	**▲ 913**	▲ 11,739
その他有価証券評価差額金	1,514	**936**	▲ 577
繰延ヘッジ損益	64	**166**	101
為替換算調整勘定	3,149	**▲ 1,837**	▲ 4,986
退職給付に係る調整額	―	**▲ 92**	▲ 92
持分法適用会社に対する持分相当	249	**▲ 87**	▲ 336
持分変動差額	5,847	―	▲ 5,847
包括利益	17,559	**1,196**	▲ 16,363
（内訳）			
親会社株主に係る包括利益	16,715	**1,309**	▲ 15,406
少数株主に係る包括利益	844	**▲ 112**	▲ 956

宝HLD連結_B/S概要：資産

（2015年3月期 第2Q末）

（単位：億円）	14/03末	14/09末	増減	主な増減理由
流動資産	1,505	**1,543**	37	
現金及び預金	410	**369**	▲ 40	TH ＋12.1　TS ▲27.2　TB ▲21.6
受取手形及び売掛金	519	**499**	▲ 19	TS ▲3.5　TB ▲15.4
有価証券	215	**288**	72	TH ＋19.9　TS ＋39.3　TB ＋13.4
たな卸資産	309	**326**	16	TS ＋12.4　TB ＋4.3
その他	51	**60**	8	
固定資産	880	**921**	41	
有形固定資産	479	**509**	29	当期の有形・無形固定資産の増減内訳
無形固定資産	116	**112**	▲ 4	新規取得 ＋55.2（TS ＋24.8　TB ＋30.0）
のれん	75	**72**	▲ 2	減価償却 ▲21.2（TS ▲29.6　TB ▲11.5）
その他	41	**39**	▲ 1	その他増減 ＋33.9
投資その他資産	283	**300**	16	
投資有価証券	235	**250**	14	TH ＋14.1（時価評価差損）
その他	48	**49**	1	
資産合計	2,385	**2,465**	79	

（TH：宝HLD、TS：宝酒造グループ、TB：タカラバイオグループ）

宝HLD連結_B/S概要：負債・純資産

（2015年3月期 第2Q末）

（単位：億円）	14/03末	14/09末	増減	主な増減理由
流動負債	486	**518**	31	
支払手形及び買	144	**144**	Δ 0	
借入金・社債	59	**56**	Δ 2	
その他	283	**317**	34	
固定負債	434	**489**	54	
借入金・社債	253	**303**	50	第10回普通社債（2015年5月償還）▲50.0 、長期借入金 ＋101.0
その他	181	**185**	3	
負債合計	921	**1,007**	86	
株主資本合計	1,112	**1,112**	0	
資本金・資本剰	164	**164**	0	
利益剰余金	1,047	**1,047**	0	
自己株式	Δ 99	**Δ 99**	Δ 0	
その他包括利益累計	102	**96**	Δ 5	
少数株主持分	249	**248**	Δ 1	
純資産合計	1,464	**1,457**	Δ 6	

（TH：宝HLD、TS：宝酒造グループ、TB：タカラバイオグループ）

宝HLD連結_キャッシュ・フロー：営業CF～投資CF　（2015年3月期 第2Q累計）

（単位：億円）	14/03期 2Q累計実績	15/03期 2Q累計実績	増減
営業キャッシュ・フロー (a)	▲ 18	**▲ 13**	5
税金等調整前当期純利益	118	**33**	▲ 84
減価償却費	20	**21**	0
売上債権の増減額（▲：増加）	15	**17**	2
たな卸資産の増減額（▲：増加）	▲ 29	**▲ 19**	9
仕入債務の増減額（▲：減少）	1	**0**	▲ 0
未払酒税の増減額（▲：減少）	▲ 20	**▲ 10**	9
法人税等の支払額	▲ 24	**▲ 59**	▲ 34
その他	▲ 100	**3**	103
投資キャッシュ・フロー (b)	▲ 19	**▲ 48**	▲ 28
有形及び無形固定資産の取得による支出	▲ 30	**▲ 30**	0
関係会社株式の売却による収入	122	**－**	▲ 122
連結範囲の変更を伴う子会社株式・出資金の取得等による支出	▲ 26	**▲ 1**	25
その他	▲ 84	**▲ 16**	67
フリー・キャッシュフロー (a+b)	▲ 38	**▲ 61**	▲ 23

宝HLD連結_CF概要：財務CF～期末残高

（2015年3月期 第2Q累計）

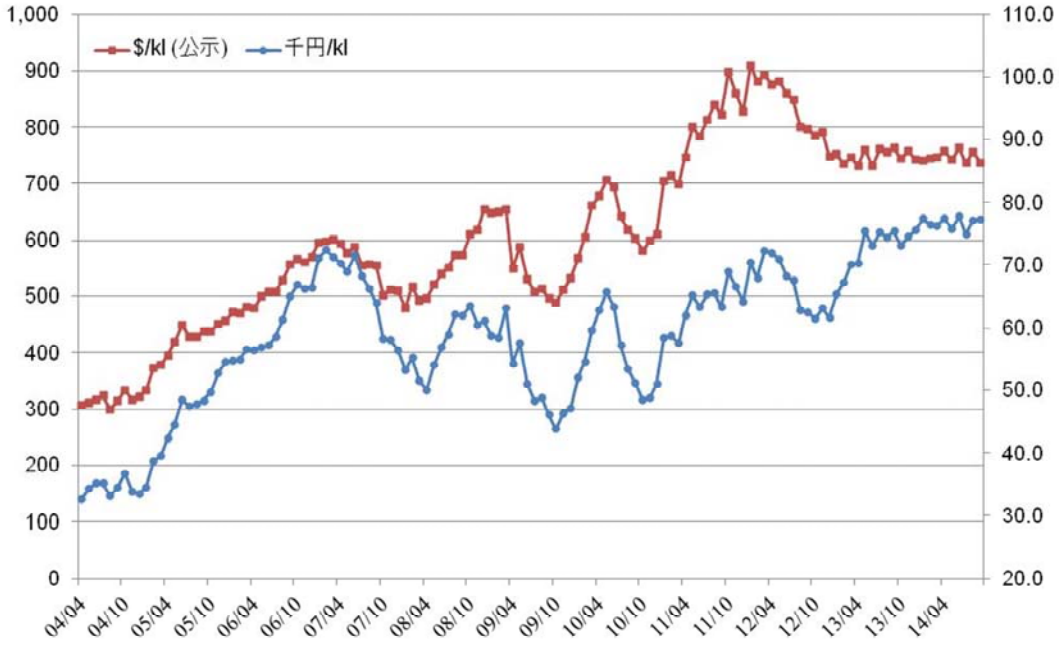
（単位：億円）	14/03期 2Q累計実績	15/03期 2Q累計実績	増減
財務キャッシュ・フロー	42	**73**	30
社債の発行及び長期借入による収入	―	**101**	101
社債の償還及び長期借入金の返済による支出	▲ 50	**▲ 1**	49
少数株主からの払込みによる収入	114	**―**	▲ 114
配当金の支払額	▲ 18	**▲ 22**	▲ 3
その他	▲ 2	**▲ 4**	▲ 1
現金及び現金同等物増減	12	**6**	▲ 5
現金及び現金同等物期首残高	352	**346**	▲ 6
現金及び現金同等物期末残高	365	**352**	▲ 12

為替前提（海外子会社P/L換算用レート）

2Q累計 （単位：円）	14/03期 (13年1月-6月)	15/03期 (14年1月-6月)			
	実績	期初予想	実績	前期差	期初予想差
ドル	95.73	96.00	**102.46**	+6.73	+6.46
ポンド	147.53	152.00	**171.05**	+23.52	+19.05
ユーロ	125.63	130.00	**140.42**	+14.79	+10.42
元	15.49	16.00	**16.64**	+1.15	+0.64
100ｳｫﾝ	8.67	8.50	**9.78**	+1.11	+1.28
ｲﾝﾄﾞﾙﾋﾟｰ	1.75	1.50	**1.69**	-0.06	+0.19

通期 （単位：円）	14/03期 (13年1月-12月)	15/03期 (14年1月-12月)			
	実績	期初予想	修正予想	前期差	期初予想差
ドル	97.73	96.00	**103.60**	+5.87	+7.60
ポンド	152.79	152.00	**172.60**	+19.81	+20.60
ユーロ	129.78	130.00	**138.60**	+8.82	+8.60
元	15.92	16.00	**16.80**	+0.88	+0.80
100ｳｫﾝ	8.93	8.50	**10.00**	+1.07	+1.50
ｲﾝﾄﾞﾙﾋﾟｰ	1.68	1.50	**1.70**	+0.02	+0.20

粗留アルコール輸入（CIF）価格の推移



<ﾃﾞｰﾀ出所>財務省貿易統計

財務方針

財務方針

➢健全な財務体質を維持しながら、資本効率を意識し、利益成長のための重点戦略への積極的な投資と、適切な株主還元を実施する

健全な財務体質の維持

◆格付「シングルA」を維持する

利益成長のための積極的投資

◆健全な財務体質を維持しながら、利益成長のために、国内酒類設備（「澪」増産）、海外M&A（日本食材卸）、バイオ設備（CDMO事業強化）、バイオ研究開発（臨床開発プロジェクト）への投資を積極的に行う

資本効率を意識した適切な株主還元

◆連結営業利益の水準に応じて増配を実施し、みなし配当性向*30%を目安に配当を行う

◆自己株式取得についても、状況に応じて機動的な実施を検討する

$$*\text{みなし配当性向} = \frac{\text{配当総額}}{\text{連結営業利益} \times (1 - \text{法定実効税率})} \fallingdotseq 30\%$$

積極的な投資による利益成長と自己資本のコントロールにより、ROEの向上を目指す

資料中の当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

＜お問合せ＞
宝ホールディングス株式会社　IR室
Tel. 075-241-5124
E-Mail　ir@takara.co.jp